

## アジア・アフリカ学術基盤形成事業 平成25年度 実施計画書

### 1. 拠点機関

|               |            |
|---------------|------------|
| 日本側拠点機関：      | 大阪大学       |
| (ザンビア) 拠点機関：  | ザンビア大学     |
| (南アフリカ) 拠点機関  | フリー・ステート大学 |
| (タンザニア) 拠点機関： | 国際関係センター   |

### 2. 研究交流課題名

(和文)：南部アフリカにおける「平和のオアシス」形成に向けた研究ネットワークの制度化 (交流分野：政治学)

(英文)：Towards the development of an 'oasis of peace' through the institutionalization of a research network in southern Africa  
(交流分野：Politics)

研究交流課題に係るホームページ：<http://www.saccps.org/>

### 3. 採用期間

平成23年4月1日 ～ 平成26年3月31日

(3年度目)

### 4. 実施体制

#### 日本側実施組織

拠点機関：大阪大学

実施組織代表者 (所属部局・職・氏名)：学長・平野俊夫

コーディネーター (所属部局・職・氏名)：大学院国際公共政策研究科・准教授・

HAWKINS, Virgil

協力機関：なし

事務組織：大阪大学国際交流オフィス国際交流課国際交流推進係、  
大阪大学経済学研究科・国際公共政策研究科事務部

#### 相手国側実施組織 (拠点機関名・協力機関名は、和英併記願います。)

(1) 国 (地域) 名：ザンビア

拠点機関：(英文) University of Zambia (UNZA)

(和文) ザンビア大学

コーディネーター（所属部局・職・氏名）：  
（英文） School of Humanities and Social Sciences  
Professor・PHIRI, Bizeck  
協力機関：（英文） Zambia Open University (ZAOU)  
（和文） ザンビア・オープン大学  
協力機関：（英文） Copperbelt University (CBU)  
（和文） コッパーベルト大学

(2) 国（地域）名：南アフリカ  
拠点機関：（英文） University of the Free State  
（和文） フリー・ステート大学  
コーディネーター（所属部局・職・氏名）：  
（英文） Department of Political Science  
Senior Professor・SOLOMON, Hussein  
協力機関：（英文） University of Pretoria  
（和文） プレトリア大学

(3) 国（地域）名：タンザニア  
拠点機関：（英文） Centre for Foreign Relations  
（和文） 国際関係センター  
コーディネーター（所属部局・職・氏名）：  
（英文） Centre for Foreign Relations  
Lecturer・SHAHARI, Riziki  
協力機関：（英文） なし  
（和文） なし

## 5. 全期間を通じた研究交流目標

度重なる武力紛争と人道危機を経験した南部アフリカ地域において紛争を收拾し、持続的な平和と発展を確保することは、最も重要で喫緊の基盤的研究課題の一つといえる。本事業は、平和国家として平和の尊さを知り、武力による問題解決の愚かさを知る日本側研究者が主導し、日本と南部アフリカを結び、紛争解決と平和の持続化に高度な知的貢献のできる研究者の育成とネットワーク化を研究交流目的とする。具体的には、ザンビアのパートナー大学と密接に連携し、ザンビアに南部アフリカ地域ワイドで紛争と平和に関する研究拠点となる「平和のオアシス研究所」（仮称）を設立し、それと大阪大学大学院国際公共政策研究科（OSIPP）をハブとする日本側の紛争研究コミュニティと

をつないだ学術基盤を形成することを構想している。この学術基盤を通じ、日本側は学術的知見を南部アフリカへの提供するほか、紛争の現場に生きる南部アフリカの研究者との直接的・継続的な知的交流で、若手を含む日本側研究者の研究の深化も期待できる。

南部アフリカでは未だ研究交流・発信の機会が限定的で、長年の紛争と平和活動から得た知識・経験・教訓が豊富に存在するが、相互に共有されていない。ここで地域の研究者間のネットワーク化が制度化できれば、これらの「知的財産」の共有が一気に進む潜在性がある。この点、ザンビアは、まさに「平和のオアシス」として、周りを紛争経験国に囲まれながらも平和と政治的安定を確保しており、地域の若手を含む研究者を結ぶハブとなる格好の環境を備えている。日本の研究者にとっても、ザンビアは、アフリカについて学ぶ上で、紛争の現場情報へのアクセスや現地の研究者との交流のため有益な拠点として機能しうる。

日・ザンビアの両拠点間で共同研究（平成 23 年度には「紛争と仲介」、24 年度には「平和維持・強制」、25 年度は「平和構築：持続的な平和と発展の実現」をトピックに予定）を進め、実際の研究会合に加え、新規に編集するオンライン・ジャーナルやウェブを通じた成果の検討や公表を進める。

持続的な平和と発展に向けて日・南部アフリカ間の高度な知の集積と交換に弾みつけ、「平和のオアシス」を南部アフリカ・ワイドに広げることに日本が手を貸すことができたならば、大きな知的成果と言えよう。

## 6. 前年度までの研究交流活動による目標達成状況

本事業の最終的目標のひとつは南部アフリカ地域ワイドで紛争と平和に関する研究拠点となる「平和のオアシス研究所」（仮称）をザンビアに設立することであるが、平成 24 年度には研究所を設立するためのプロポーザルをまとめ提出することを目標としていた。しかし、平成 24 年度には状況が大きく変わり、その提出はしていない。ザンビアの協力機関であるコッパーベルト大学では、新しく紛争と平和の研究科の建物を新築することが判明し、その一環として、「平和のオアシス研究所」を設立するという合意に至った。従って、「平和のオアシス研究所」のプロポーザルはコッパーベルト大学の研究科に合わせて進めることになった。

学術的観点からの目標としては、共同研究とセミナーを通じて、南部アフリカの国々がこれまで経験してきた平和維持・平和強制の試みに関する分析を行い、その成果と課題を明らかにし、まとめることを目標にしていた。平成 24 年 9 月、ザンビアの首都ルサカで南部アフリカにおける仲介・和解というテーマでセミナーを開催した。共同研究の参加研究者の多くがセミナーに向けて研究を推め、12 人が学術論文を用意した。これらの論文は多様な側面から平和維持・平和強制を捉え、ミクロからマクロレベル、地域内および地域外からの教訓などが分析の対象となった。さらに、外交官や防衛省を代

表する参加者が実践者のためのセッションに参加し、より現実的な捉え方が可能となった。

この研究成果などを発信するため、オンライン・ジャーナルが平成 23 年度から準備されていたが、平成 24 年度にはその第 1 巻第 1 号と第 1 巻第 2 号が無事出版された。さらに、参加研究者がインターネットを通じて、研究の成果をインフォーマルに公開し、リアルタイムに交流ができるために、ブログ（Southern African Peace and Security Blog）が開始され、予想をはるかに超える 42 の投稿が掲載された。

若手研究者養成という観点からの目標としては、平成 24 年度の派遣研究者の内、4 人を若手研究者とする予定であった。成果はこの目標をはるかに超えた。日本側から 2 人の若手研究者（1-7、1-8）がセミナーに参加した。また、年度の途中から、日本側からさらに 2 人の若手研究者（1-9、1-10）が本事業に加わり、研究者交流として参加した。また、マラウイ（ザンビア側）、ボツワナ（ザンビア側）、コンゴ民主共和国（タンザニア側）から 1 人ずつ（2-17、2-19、4-8）、セミナー及び共同研究のために派遣された。

また、研究者が派遣先の大学で講演会を開くことを徹底し、日本においても、南部アフリカにおいても、派遣がある際、学生が対象となった講演会が開かれ、日本及び南部アフリカ内の若手研究者の南部アフリカにおける紛争と平和の問題に関する意識・関心を高めることに貢献した。

## 7. 平成 25 年度研究交流目標

平成 23 年度には紛争と平和に関する研究拠点となる「平和のオアシス研究所」(仮称)に向けて、ザンビア・オープン大学を中心に設立準備室を開設した。平成 24 年度にはコッパーベルト大学が新築する予定の紛争と平和の研究科に合わせて、同研究所の計画を進めることになった。平成 25 年度の目標としては、研究所の実現に向けてコッパーベルト大学と一体になり、コッパーベルト大学の平和と紛争の研究科と「平和のオアシス研究所」のためのドナー候補にプロポーザルを提出することも目標とする。また、研究所のみならず、地域のネットワーク全体の活動のためにも、資金調達を進めることも目標とする。

学術的観点からの目標としては、共同研究とセミナーを通じて、南部アフリカの国々がこれまで経験してきた平和構築の試みに関する分析を行い、その成果と課題を明らかにし、まとめる。また、平成 25 年度には、オンライン・ジャーナル第 2 巻第 1 号・2 号まで公表する。オンライン・ジャーナルは学術論文のみならず、政策分析、書評も含む。さらに、平成 23 年度に始めたブログを続行し、平成 25 年度には少なくとも地域内外から 40 のエントリーを公表する。

若手研究者養成という観点からの目標としては、平成 25 年度の派遣研究者の内、6

人を若手研究者とする。現在の予定では、日本（1名）、マラウイ（2名）、ボツワナ（1名）、南アフリカ（1名）、ザンビア（1名）からの若手研究者を他国へ派遣する。これらの若手研究者は共同研究またはセミナーに参加する。また、研究者の派遣先の大学で講演会を開くことを通じて、日本及び南部アフリカ内の若手研究者の南部アフリカにおける紛争と平和の問題に関する意識・関心を高めることも目標とする。

## 8. 平成25年度研究交流計画状況

### 8-1 共同研究

—研究課題ごとに作成してください。—

| 整理番号  | R-1   | 研究開始年度 | 平成 25 年度 | 研究終了年度 | 平成 25 年度 |
|---|---|--------|----------|--------|----------|
| 研究課題名                                       | (和文) 南部アフリカにおける平和維持・平和強制<br>(英文) Peacekeeping and Peace Enforcement in Southern Africa  |        |          |        |          |
| 日本側代表者<br>氏名・所属・<br>職                       | (和文) ホーキンス・ヴァージル・大阪大学・准教授<br>(英文) Hawkins, Virgil・Osaka University・Associate Professor  |        |          |        |          |
| 相手国側代表者<br>氏名・所属・<br>職                      | Phiri, Bizeck・ザンビア大学・教授<br>Solomon, Hussein・フリー・ステート大学・教授<br>Shahari, Riziki・国際関係センター・講師  |        |          |        |          |
| 参加者数  | 日本側参加者数   | 3名     |          |        |          |
|   | (ザンビア) 側参加者数  | 11名    |          |        |          |
|   | (南アフリカ) 側参加者数   | 8名     |          |        |          |
|   | (タンザニア) 側参加者数   | 6名     |          |        |          |
| 25年度の<br>研究交流活動<br>計画                       | <p>平成24年度には平和維持・平和強制を中心に共同研究を行った。特に注目されたのは南部アフリカ開発共同体による活動とコンゴ民主共和国問題の2つの側面であった。平成25年度には平和構築がテーマとなるが、引き続き南部アフリカ開発共同体などを通じた地域としての活動と紛争から立ち直ろうとするコンゴ民主共和国にフォーカスする。さらに、平和構築において大きな役割を果たす国連および非政府組織というアクターにも注目する。地域内および地域外からの教訓などが分析の対象となる。</p> <p>この研究成果を発信するため、継続中のオンライン・ジャーナルの第1巻第1号及び2号を出版する予定である。研究成果を他の学術誌に掲載している（もしくは掲載する予定）場合もある。さらに、参加研究者がインターネットを通じて、研究の成果をインフォーマルに公開できるブログ執筆（Southern African Peace and Security Blog）も予定している。</p> |        |          |        |          |
| 25年度の<br>研究交流活動<br>から得られる<br>ことが期待さ<br>れる成果 | <p>南部アフリカの国々がこれまで経験してきた平和構築の試みに関する分析が行われ、その成果と課題が明らかになり、まとめられることである。具体的には、地域組織、国連などのアクターによる活動、そして地域としてコンゴ民主共和国における活動が分析され評価される。成果としては、オンライン・ジャーナル（Southern African Peace and Security Studies）がホームページを通じて2回（第2巻第1号・第2号）出版される。また、参加研究者が研究成果をインフォーマルに公開するブログも少なくとも40回分のエントリーが掲載される。</p>   |        |          |        |          |

## 8-2 セミナー

—実施するセミナーごとに作成してください。—

|  |   |
|--|---|
| 整理番号                                   | S-1   |
| セミナー名                                  | (和文) 日本学術振興会アジア・アフリカ学術基盤形成事業「南部アフリカにおける平和構築」                              |
|  | (英文) JSPS AA Science Platform Program “Peacebuilding in southern Africa “ |
| 開催期間                                   | 平成 24 年 9 月 6 日 ～ 平成 24 年 9 月 8 日 (3 日間)                                  |
| 開催地(国名、都市名、会場名)                        | (和文) ザンビア、ルサカ、会場は未定   |
|  | (英文) Zambia, Lusaka, Venue undecided                                      |
| 日本側開催責任者<br>氏名・所属・職                    | (和文) ホーキンス、ヴァージル・大阪大学・准教授   |
|  | (英文) Hawkins, Virgil・Osaka University・Associate Professor                 |
| 相手国側開催責任者<br>氏名・所属・職<br>(※日本以外での開催の場合) | Phiri, Bizeck・ザンビア大学・教授   |

参加者数

| 派遣先<br>派遣                      |    | セミナー開催国<br>(ザンビア) |
|--------------------------------|----|-------------------|
| 日本<br>〈人／人日〉                   | A. | 2/ 10             |
|                                | B. | 0                 |
| ザンビア<br>〈人／人日〉                 | A. | 11/ 33            |
|                                | B. | 15                |
| 南アフリカ<br>〈人／人日〉                | A. | 4/ 16             |
|                                | B. | 0                 |
| タンザニア<br>〈人／人日〉                | A. | 1/ 4              |
|                                | B. | 0                 |
| マラウイ、ボツワナ<br>(ザンビア側)<br>〈人／人日〉 | A. | 4/ 16             |
|                                | B. | 0                 |
| ジンバブエ<br>(南アフリカ側)<br>〈人／人日〉    | A. | 1/ 4              |
|                                | B. | 0                 |
| コンゴ民主共和国<br>(タンザニア側)<br>〈人／人日〉 | A. | 1/ 4              |
|                                | B. | 0                 |
| 合計<br>〈人／人日〉                   | A. | 24/ 87            |
|                                | B. | 15                |

A. 本事業参加者（参加研究者リストの研究者等）

B. 一般参加者（参加研究者リスト以外の研究者等）

|           |  |
|-----------|--|
| セミナー開催の目的 | 平成 25 年度の共同研究のテーマである「南部アフリカにおける平和構築」(Peacebuilding in Southern Africa) の成果をまとめ、発信することをセミナーの目的とする。具体的には、平和構築の概念・課題、あるいは南部アフリカの地域における紛争構築の事例について理解を深めることである。また、「平和のオアシス研究所」の設立に向けて協議を行い、研究所のあり方及び活動の計画をまとめることも目的とする。 |
|-----------|--|



|                      |  |             |             |
|----------------------|--|-------------|-------------|
| 期待される成果              | 南部アフリカ及び日本の紛争・平和研究者の間の交流が行われる。平和構築の概念・課題、または南部アフリカの地域における平和構築活動及び南部アフリカ諸国による平和構築活動の事例について議論が行われ、理解が深まる。南部アフリカ内のネットワーク拡大のための議論も行われる。また、「平和のオアシス研究所」の設立に向けて、施設・活動計画案がまとめられる。 |             |             |
| セミナーの運営組織            | 拠点機関となっているザンビア大学の監督のもと、協力機関であるザンビア・オープン大学は日本側のコーディネーターと共に、実施する。  |             |             |
| 開催経費<br>分担内容<br>と概算額 | 日本側  | 内容          | 金額          |
|                      |  | 外国旅費        | 2,117,000 円 |
|                      |  | 謝金          | 0 円         |
|                      |  | 消耗品購入費      | 0 円         |
|                      |  | その他経費       | 575,000 円   |
|                      | 合計   | 2,692,000 円 |             |
|                      | (ザンビア) 側   | 内容          | 金額          |
|                      |  |             | 0 円         |
|                      | (南アフリカ) 側  | 内容          | 金額          |
|                      |  |             | 0 円         |
|                      | (タンザニア) 側  | 内容          | 金額          |
|                      |  |             | 0 円         |

### 8-3 研究者交流（共同研究、セミナー以外の交流）

| 所属・職名<br>派遣者名               | 派遣・受入先<br>(国・都市・機関)          | 派遣時期     | 用務・目的等  |
|-----------------------------|------------------------------|----------|---|
| 1 相手国との交流                   |                              |          |   |
| ボツワナ大学・講師・グラディス・モカワ         | 日本・大阪・大阪大学                   | 2013年6月  | 日本で紛争・平和を研究する研究者と交流をし、情報共有・意見交換をする。また、日本の大学で南部アフリカの紛争・平和に関する講演会を実施する。 |
| 大阪大学・准教授・ヴァージル・ホーキンス        | アンゴラ・ルアンダ・Augustinho Neto 大学 | 2013年9月  | アンゴラで紛争・平和を研究する研究者と交流をし、情報共有・意見交換をする。また、南部アフリカにおける平和と紛争に関する講演会を実施する。  |
| 大阪大学・学生（博士後期課程）・ルイ・ファロ・サライバ | アンゴラ・ルアンダ・Augustinho Neto 大学 | 2013年9月  | アンゴラで紛争・平和を研究する研究者と交流をし、情報共有・意見交換をする。また、南部アフリカにおける平和と紛争に関する講演を通訳する。   |
| 2 国内での交流                    |                              |          |   |
| 大阪大学・准教授・ヴァージル・ホーキンス        | 日本・東京・南部アフリカ各国の大使館           | 2013年11月 | 南部アフリカの大使館の代表と協議し、本事業のための情報収集・意見交換を行う。                                |

9. 平成25年度研究交流計画総人数・人日数

9-1 相手国との交流計画

| 派遣先<br>派遣元                     | 日本<br>〈人/人日〉 | ザンビア<br>〈人/人日〉 | 南アフリカ<br>〈人/人日〉 | タンザニア<br>〈人/人日〉 | マラウイ<br>(ザンビア<br>側)<br>〈人/人日〉 | ボツワナ<br>(ザンビア<br>側)<br>〈人/人日〉 | アンゴラ<br>(ザンビア<br>側)<br>〈人/人日〉 | 合計<br>〈人/人日〉  |
|--------------------------------|--------------|----------------|-----------------|-----------------|-------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|---------------|
| 日本<br>〈人/人日〉                   |              | 2/10 ( )       | ( )             | ( )             | ( )                           | ( )                           | 2/10 ( )                      | 4/20 ( 0/0 )  |
| ザンビア<br>〈人/人日〉                 | ( )          |                | ( )             | ( )             | ( )                           | ( )                           | 1/5 ( )                       | 1/5 ( 0/0 )   |
| 南アフリカ<br>〈人/人日〉                | ( )          | 3/15 ( 1/5 )   |                 | ( )             | ( )                           | ( )                           | 1/5 ( )                       | 4/20 ( 1/5 )  |
| タンザニア<br>〈人/人日〉                | ( )          | 1/5 ( )        | ( )             |                 | ( )                           | ( )                           | ( )                           | 1/5 ( 0/0 )   |
| マラウイ<br>(ザンビア<br>側)<br>〈人/人日〉  | 1/6 ( )      | 3/15 ( )       | 1/5 ( )         | ( )             |                               | ( )                           | ( )                           | 5/26 ( 0/0 )  |
| ボツワナ<br>(ザンビア<br>側)<br>〈人/人日〉  | ( )          | 1/5 ( )        | 1/5 ( )         | ( )             | ( )                           |                               | ( )                           | 2/10 ( 0/0 )  |
| ジンバブエ<br>(南アフリ<br>カ)<br>〈人/人日〉 | ( )          | 1/5 ( )        | ( )             | ( )             | ( )                           | ( )                           | ( )                           | 1/5 ( 0/0 )   |
| コンゴ民<br>(タンザニア<br>側)<br>〈人/人日〉 | ( )          | 1/5 ( )        | ( )             | ( )             | ( )                           | ( )                           | ( )                           | 1/5 ( 0/0 )   |
| 合計<br>〈人/人日〉                   | 1/6 ( 0/0 )  | 12/60 ( 1/5 )  | 2/10 ( 0/0 )    | 0/0 ( 0/0 )     | 0/0 ( 0/0 )                   | 0/0 ( 0/0 )                   | 4/20 ( 0/0 )                  | 19/96 ( 1/5 ) |

9-2 国内での交流計画

|            |
|------------|
| 1/2 <人/人日> |
|------------|

10. 平成25年度経費使用見込み額

(単位 円)

|         | 経費内訳           | 金額        | 備考                                       |
|---------|----------------|-----------|--|
| 研究交流経費  | 国内旅費           | 40,000    | 国内旅費、外国旅費の合計は、研究交流経費の50%以上であること。         |
|         | 外国旅費           | 3,812,000 |  |
|         | 謝金             | 0         |  |
|         | 備品・消耗品購入費      | 60,000    |  |
|         | その他の経費         | 825,000   |  |
|         | 外国旅費・謝金等に係る消費税 | 0         |  |
|         | 計              | 4,737,000 | 研究交流経費配分額以内であること。                        |
| 業務委託手数料 |                | 473,700   | 研究交流経費の10%を上限とし、必要な額であること。また、消費税額は内額とする。 |
| 合 計     |                | 5,210,700 |  |